

所 管 事 項 調 査

目 次

ページ

1	ファミリー・サポート・センターながさきにおける 「ファミサポくんクラウド版」導入の進捗状況について	・・・・・・・・・・・・・・・・ P 2 ～ 7
2	こども福祉医療費制度について	・・・・・・・・・・・・・・・・ P 8 ～ 1 0

こ ども 部
令和 8 年 9 月

1 ファミリー・サポート・センターながさきにおける「ファミサポくんクラウド版」導入の進捗状況について

(1) 概要

地域において育児の援助を行いたい者（まかせて会員）及び育児の援助を受けたい者（おねがい会員）が会員となり、相互扶助の精神に基づいて実施する援助活動を支援する「ファミリー・サポート・センターながさき」を運営するもの。

平成20年9月に事業を開始し、長崎市社会福祉協議会及び長崎市保育会に「ファミリー・サポート・センターながさき」の運営を委託している。

① 会員の区分及び対象 ※R7年度末会員数:2,287人

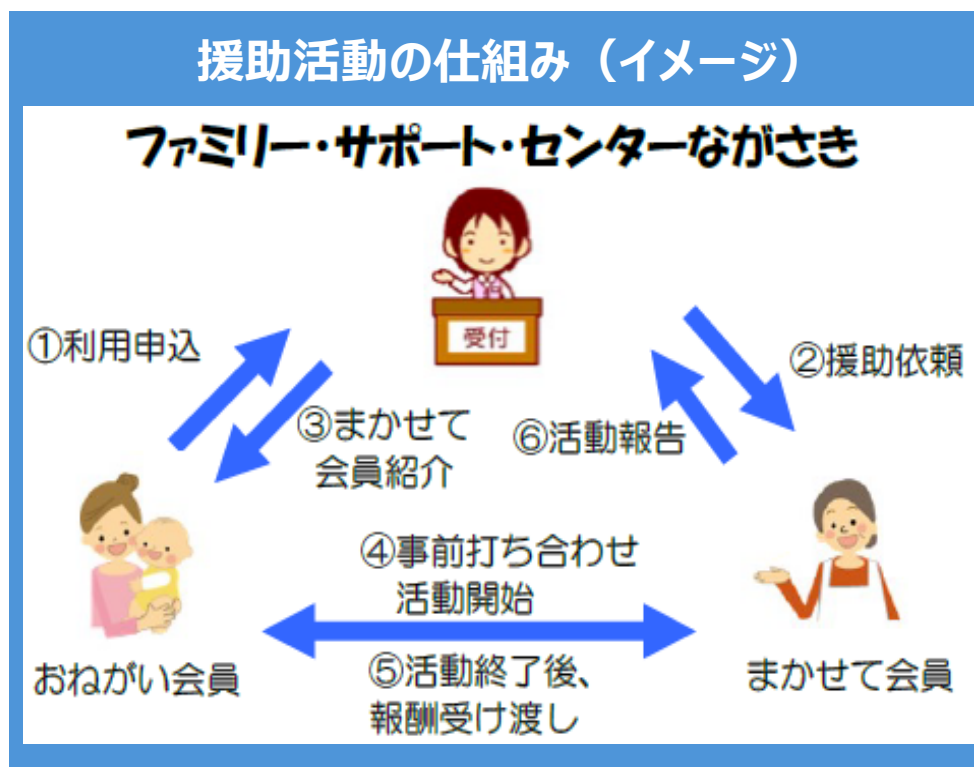
おねがい会員 (1,553人)	長崎市、長与町又は時津町に居住し、乳幼児又は小学生と同居・養育する方
まかせて会員 (648人)	長崎市に居住する20歳以上の方 (所定の研修を受講した者)
どっちも会員 (86人)	おねがい会員とまかせて会員を兼ねる方

② 活動内容例 ※R7年度活動回数:2,986回

- ・ 保育園等の送迎、学校や学童クラブ終了後の預かり
 - ・ 塾や習い事の際の送迎
 - ・ 冠婚葬祭等の際の預かり など
- (※理由は問わずに利用可能)

③ 利用料金（基本料金）

平日：700～800円/時間
土日祝日：800～900円/時間



(2) 会員情報等管理システムの現状等

現状

- 平成20年9月の事業開始以降、会員情報や活動記録は「ファミサポくん」で管理している。
- インターネット非接続のシステムであるため、会員登録手続きや活動後の報告などは紙媒体で作成し、会員が郵送や持参でセンターへ提出している。
- センターと会員、会員同士の連絡手段は電話や来所が中心のシステムとなっている。

問題点 と 課題

- 会員登録手続きや活動報告書の提出に際して、会員側にFAXで送る手間や郵送料・バス代などの負担が生じている。
- センター側は受領した会員登録申請書や活動報告書の内容をシステムに入力しなければならないため、事務処理の負担が大きい。
- 電話・来所が中心のため、マッチングや援助活動の申込時に時間を気にしなければならない。



【課題】会員の利便性向上 と センターの事務処理負担の軽減

対応

オンラインで利用できる会員情報等管理システム「ファミサポくんクラウド版」の導入

(3)-① 新旧システムによる変更点【 会員登録時 】

ファミサポくん



- 会員登録の申請は、登録を希望する方が紙媒体の申請書を作成して郵送または持参する。
- センターは申請書の受領後に申請内容をシステムに入力する。

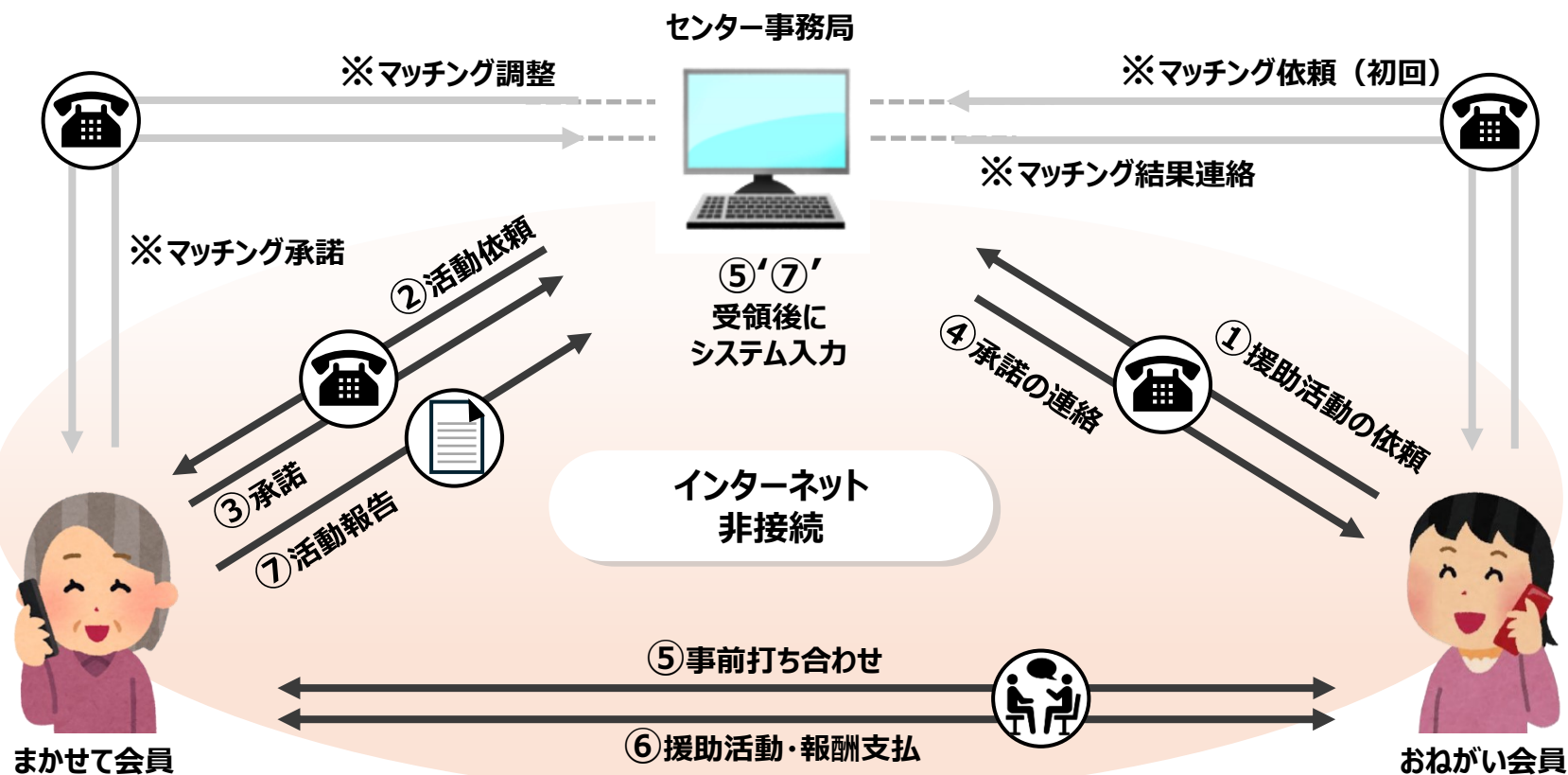
ファミサポくんクラウド版



- オンライン上で登録申請書が作成・申請できるため郵送や持参の必要がない。
- オンライン申請の場合、センターは申請内容をシステムに入力する必要がない。

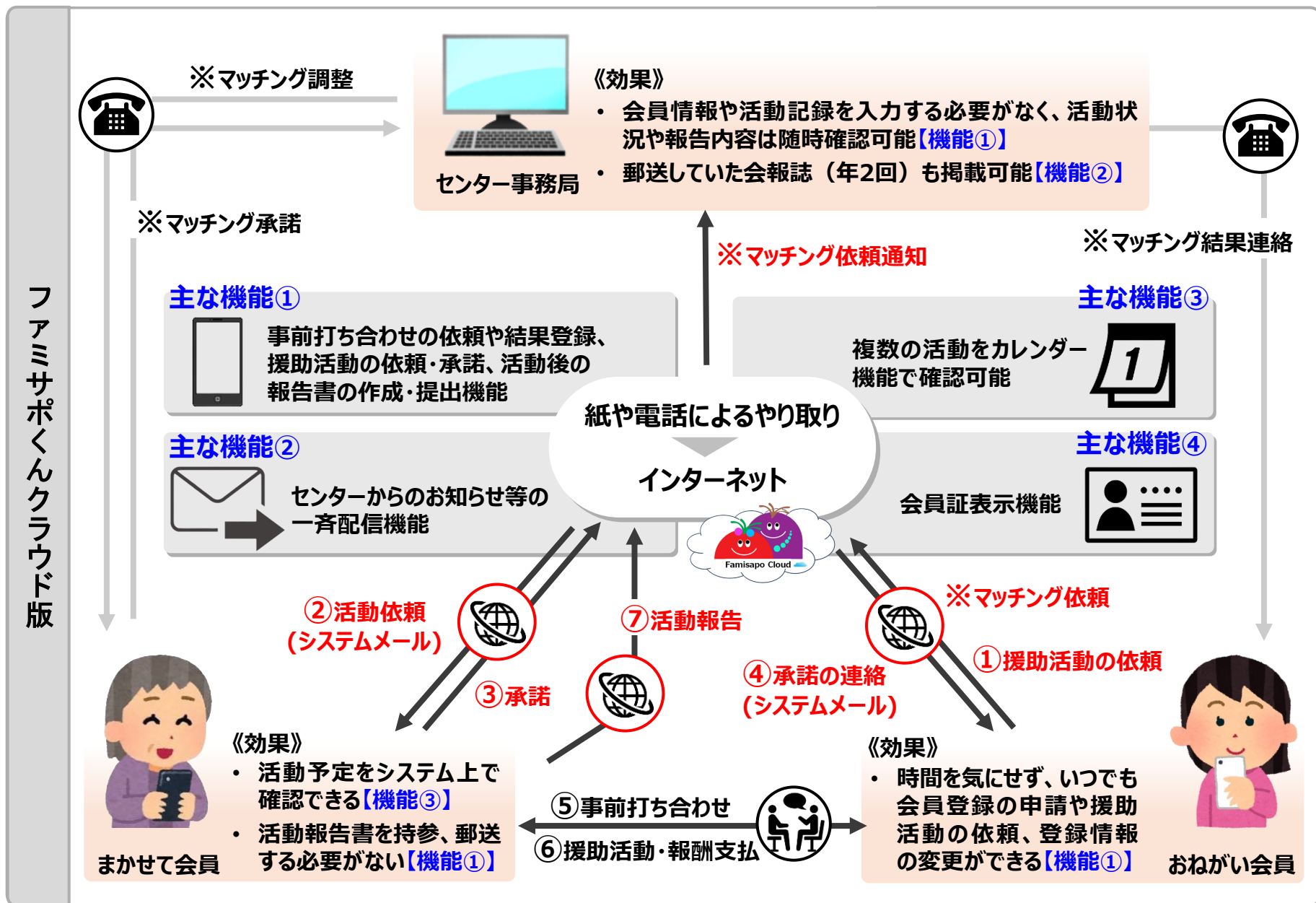
(3)-② 新旧システムによる変更点【 援助活動依頼時 】

ファミサポくん



- 初回活動時のマッチングの依頼・承諾や援助活動依頼・承諾は基本的に電話で調整する。
- 援助活動後の報告書は紙媒体で作成して郵送または持参する。
- センターは事前打ち合わせや活動報告書を受領後に内容をシステムに入力する。

(3)-② 新旧システムによる変更点【 援助活動依頼時 】



(4) 導入までの経過

項目	R7年度		R8年度						
	～2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
旧システムからの データ抽出・移行作業	●								
パッケージ納品		●							
カスタマイズ機能調整 ・操作マニュアル作成			●	→					
宛名確認・発送準備					●	→			
会員向けお知らせ発送 (登録マニュアル含む)							●		
操作説明会 (8月中旬から順次開催)							●	→	
一般向け周知								●	→

(5) 今後の対応

- マニュアルの作成段階から一部の会員にご協力いただき、試行的に登録手続きを実施したところ、特に「まかせて会員」においては、迷惑メールの設定解除やスマートフォンのトップ画面へのショートカット作成方法などを含め、会員向けにスマートフォン上でのシステムの操作説明が必要。
- ファミサポくんクラウド版の機能を活用して利便性の向上や事務処理負担を軽減するためには、「おねがい会員」だけでなく「まかせて会員」にもクラウド版を利用していただく必要がある。

- クラウド版の利点などを丁寧に説明するとともに、10月までの操作説明会の状況を踏まえ、11月以降も必要に応じて操作説明会の開催を検討する。
- 併せて、オンラインに対応したシステムの導入について、SNS等による周知に取り組む。

2 こども福祉医療費制度について

(1) 現状

0歳児から高校生世代までのこどもを対象に、医療費に係る自己負担額を1医療機関あたり、1日上限800円、ひと月上限1,600円で済むよう助成。（調剤薬局は自己負担額なし。）

※令和8年12月受診分から、0歳児に係る自己負担額を無償化。



ア 支給方法及び県補助率

対象	支給方法	県補助率
乳幼児	現物給付	1/2
小学生	現物給付	なし
中学生	現物給付	なし
高校生世代	償還払	10/10 ※

※現物給付の場合は63/100

イ 県内各市町の実施状況（R8.4.1時点）

	乳幼児	小・中学生	高校生世代
現物給付	21市町 (長崎市)	18市町 (長崎市)	11市町
償還払	0市町	3町	10市町 (長崎市)

これまでの経緯

- S49.10月 助成開始（乳児（入院）が対象）
～順次、助成対象拡大～
- H17.10月 対象を乳幼児（入院・通院）に拡大
- H19.4月 支給方法を現物給付化
- H28.4月 小学生（入院・通院）を対象に追加
- H29.10月 中学生（入院）を対象に追加
- H30.10月 中学生（通院）を対象に追加
- R5.4.1 県が高校生世代への助成開始
（支給方法は償還払）
- R5～R8年度 県へ毎年度要望

【課題】

- ◆ 小・中学生が県の制度対象となっておらず、市の財政負担が大きい。
- ◆ 高校生世代の支給方法が償還払であるため、市民にとって申請手続きなどの負担があり、市にとっても審査事務の負担が大きい。



これまで県へ要望（長崎県市長会など）

- ① 県と市町の相応の負担による、0歳から高校生世代までの切れ目のない助成
- ② 高校生世代の支給方法の現物給付化

(2) 県からの提案

県提供資料

【現行制度】

高校生世代 ■補助率 : 県 10/10以内 ■給付方式 : 償還払い	
小中学生 ■補助率 : 市町 10/10 ■給付方式 : 現物給付 (18市町) 償還払い (3町)	
乳幼児 ■補助率 : 県1/2 市町1/2 ■給付方式 : 現物給付	

見直し内容

- ①高校生世代を現物給付化
- ②小中学生に対する助成を拡大
(全世代補助率1/3に統一)
- ③ひとり親の子、障害児を子ども医療費助成制度に統一し、
現物給付化
(補助率1/2→1/3)

【見直し案】

高校生世代 ■補助率 : 県 1/3 市町 2/3 ■給付方式 : 現物給付	
小中学生 ■補助率 : 県 1/3 市町 2/3 ■給付方式 : 現物給付	
乳幼児 ■補助率 : 県 1/3 市町 2/3 ■給付方式 : 現物給付	

①保護者等の利便性向上

- ・乳幼児から高校生世代まで県内どここの医療機関を受診しても、窓口負担800円/日(月上限1,600円)を実現
- ・窓口での立替え払いや市町への医療費助成の申請が不要
- ・居住する市町に関わらず、乳幼児から高校生世代まで同じ仕組みになり、より分かりやすい制度を実現

②市町等の事務負担軽減

- ・市町では、償還払いに係る保護者等からの申請受付、審査、支給等の事務負担が軽減
- ・医療機関では、居住する市町や世代毎の現物・償還の確認が不要となり、事務負担が軽減

(3) 県からの提案に対する市の考え (R8.8.27開催のながさきクルーミーティング(前:長崎県・市町連携会議)において県へ回答済)

- 県補助率については、現行の乳幼児の補助率が1/2であり、その延長で対象を小中学生にも拡大すべきものと捉えており、補助率1/2とすることが県と市町の相応の負担であると考えます。
- 仮に1/3とする場合も、現時点で実施の持続可能性を担保するための一時的な補助率として位置付け、中長期的には補助率1/2の検討をお願いしたい。(ひとり親の子、障害児も同様)
- 高校生世代の現物給付化については、市民の利便性向上及び市の業務効率化につながることから実施いただきたい。

(4) 予算シミュレーション (R8予算ベース)

R8予算(扶助費 ※0歳児無償化、ひとり親の子、障害児分を除く) 単位:千円

区分	受給者数	受診件数	扶助費	財源内訳	
				県	市
乳幼児	15,218人	286,210件	399,447	199,723	199,724
小学生	18,001人	237,989件	449,877	0	449,877
中学生	9,528人	104,414件	230,026	0	230,026
高校生世代	9,390人	54,069件	131,101	131,101	0
計	52,137人	682,682件	1,210,451	330,824	879,627

扶助費比較



高校生世代の現物給付化による受診件数の増(約1.6倍)

単位:千円

区分	受給者数	受診件数	扶助費	県の提案 県補助1/3		参考 県補助1/2	
				県	市	県	市
乳幼児	15,218人	286,210件	399,447	133,149	266,298	199,723	199,724
小学生	18,001人	237,989件	449,877	149,959	299,918	224,938	224,939
中学生	9,528人	104,414件	230,026	76,675	153,351	115,013	115,013
高校生世代	9,390人	85,824件	208,084	69,361	138,723	104,042	104,042
計	52,137人	714,437件	1,287,434	429,144	858,290	643,716	643,718

R8予算との差

98,320

▲21,337

312,892

▲235,909